6　朝陽富士　一面

和田英作

大正六年（一九一七）
油彩、キャンバス
八七・五×一一四・〇

本作は大正五年（一九一六）の裕仁親王（後の昭和天皇）の立太子礼を祝して、全国の文官から献上が企図された、洋画家七名による名所風景画の一点である。

三保の松原は、富士を臨む景勝地として知られる。海岸線に沿って数万本の黒松が繁り、「羽衣伝説」など文学や美術の題材として親しまれてきた。和田英作（一八七四～一九五九）が描いた本作も、富士の端麗な山容に松のシルエットがかかり、明暗の対比が強調された厳かな画面になっている。和田は「富士山と薔薇の画家」として著名で、名誉ある奉祝画の揮毫にあたり、自身が最も得意とする主題を選んだのであろう。献上後は東宮仮御所であった高輪御殿に掛けられていたことがわかっている。

なお、本作と同じ場所・角度から描かれ、構図が一致する岡田三郎助《富士山（三保にて）》（一九二〇年、佐賀県立美術館蔵）という作品があり、東京美術学校の同僚であった和田と岡田の間で写生場所の情報が共有されていた可能性があり、興味深い。

外光派の色彩表現とアカデミックな写実様式を折衷した和田の画風らしく、光によって鮮やかに変化する空の表情と、富士や松の堅実な描写が調和した美しい作品である。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写
三の丸尚蔵館展覧会図録No.86

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社アイワード
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan